

歯学部附属歯科技工専門学校
令和6年度自己点検・評価及び学校関係者評価票

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度の取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
評価項目① 社会のニーズを踏まえた教育 環境が整備されているか。	1 現状分析 社会情勢の変化に伴いCAD-CAM システムを使用した補綴装置の需要が増加しており、学校見学者からCAD-CAM を使用した授業内容について質問されることが多い。設備の充実の度合いや授業時間数で学校を選定する傾向が見られる。本校は必要最低限の設備を取り入れているが、他校と比較すると設備の充実という点で劣っている。他校並みに最新のCAD-CAM システムを導入した場合、教育面では社会のニーズに応じられるとともに、設備の充実という点でCAD-CAM システムに関心を持つ入学者を確保できると考える。 2 長所・特色 現在、本校は2台のCAD ソフトウェアが利用できるPCを設置している。授業中の運用については学生がグループごとに入れ替わり設計を行い、切削加工は外部へ業務委託している。また、歯学部附属という利点を生かし、希望者には18時までの授業開始前に臨床研修歯科医師対象のCAD-CAM セミナーに参加できる環境がある。 3 問題点 設備の充実の入学者の確保につながり、臨床歯科技工で求められる技術の修得にもつながるが、充実したCAD-CAM システムの設備を整えるには高額な予算が必要なため苦慮している。 4 取組方策 設備等の問題で実施できない授業については関連企業での研修ができるよ	A	社会のニーズに合った教育環境を整備することは重要である。しかし、現状では既存設備の範囲内で教育を実施しており、他校と比較しても設備の点では劣っている。 入学希望者の確保、就職先のニーズへの対応及び国家試験対策の問題などに対応できるように設備の充実を図る必要があると思われる。 時代の流れに沿ったCAD-CAM システムの導入は高く評価できると思う。今後、入学希望者も増えると考えられる。 歯科技工ではデジタル技術の修得は必須と思われる。設備の充実は是非とも実現させてほしい。しかし技術の修練は実際の臨床に携わることににより得られることなので、学校教育においては流れや仕組みを理解することが必要だと思う。	教員の創意工夫する姿勢は、今後も継続してほしい。 社会のニーズに沿った歯科技工教育を更に加速していただければと思う。 CAD ソフトウェアを設置し、切削加工は外部へ業務委託をしている点は評価できる。また、授業開始前に臨床研修歯科医師対象のCAD-CAM セミナーに参加できる点も評価できる。	2台のCAD ソフトウェアが利用できるPCで学生が入れ替わり設計を行っている現状では、充実した教育が図られているのか疑問である。 最新のCAD-CAM システムを導入するメリットは大きいと思われる。 入学希望者の確保に重要な要素である。 学校教育でCAD-CAM システムの技術を修得することにより、就職先のニーズに対応が可能となる。 国家試験の出題基準にも採用されているため、実習で修得した技術により正答率の向上につながる。 以上のことから最新のCAD-CAM システム導入により歯科技工教育の向上を図ることが期待される。 国家資格を取った有資格者のCAD マスターコースなどを可能であれば、検討してほしいと思う。 切削加工から仕上げまでの一連の流れを行う必要があると考える。	A	令和7年度中に3D スキャナとCAD ソフトウェア 10 台を導入することが決定している。設計後の切削加工は外部に委託する予定である。そのため指摘いただいた切削加工を含めた一連の流れを行うことは今後の課題としていく。 歯科技工所との連携についてはインターンシップやコーオペ教育などの導入を検討し、ニーズに合った歯科技工学の知識と技術を学べる環境の整備を検討していく。 オンライン授業の導入については、知識及び技術の修得、学習評価の難しさをコロナ禍で経験した。やむを得ず授業に出席できなかった場合の対応についても、補習対応以外にも最善の方法を検討したい。

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度の取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
	う検討しているが、授業開始時間が18時からのため、社会人学生には実施が困難である。現在、令和7年度新規事業計画で設備導入のための申請を行っている。				予算の都合もあると思うがCAD-CAMシステムの複数台導入を検討し、より多くの学生に時間と経験を積ませることが必要である。 デジタル技術の進歩は目覚ましく学内では対応が追いついていないように思う。歯科技工所と連携をし、外部講師の登用を検討する必要がある。 社会人学生は意識も高く他の学生のモチベーションを高める効果も期待できるので、社会人学生に対する支援はカギとなると思う。そして社会人学生も授業を受けやすいオンライン授業の提供を考えてほしい。		
評価項目② 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	1 現状分析 専修学校設置基準により本校の必要基幹教員数は3.6名となっており、3名の専任教員と日本大学歯学部兼任講師で講義を行い、実習は3名の専任教員と日本大学歯学部兼任講師で行っている日本大学歯学部兼任講師は自身の仕事が多忙であること、無償であること等が理由で常に人材不足である。 学生の体調不良及び怪我への対応、専任教員の休職等、不測の事態への対応が困難になっている。 2 長所・特色 各学年を教員1名で担当しているた	B	3学年を3名の専任教員と日本大学歯学部兼任講師で講義を行い、3名の専任教員と日本大学歯学部兼任講師で実習を行っている現状は、慢性的な人手不足が懸念される。不測の事態が発生した場合の対応が難しいと推察される。 少ない人数で日々苦勞をしているのが見学の際、感じられ	各学年を教員1名で把握しているため他の学年との距離が近く情報共有がしやすいのが見て取れる。	3学年を3名の専任教員で学年別指導を行っている現状では、専任教員が怪我や体調不良などで欠勤した場合に代用教員がいなかったため授業や実習に支障を来すことが推察される。健全な学校運営のためには専任教員の増員は必要と思われる。 教員不足は問題ではあるが難しい問題であり簡単に解決で	B	専任教員、非常勤講師及び日本大学歯学部兼任講師の確保は喫緊の課題である。専任教員の増員は専門学校だけで決めることが不可能であるため、今後、日本大学歯学部への働き掛けを継続的に続けていき、また、非常勤講師の増員についても併せて協議し、人材確保に向けた体制を構築し、教員の増強を図っていく。

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度の取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
	め他の学年との情報共有がしやすい。 3 問題点 教員が体調不良で欠勤した場合、授業や実習に支障をきたす可能性が出てくる。 4 取組方策 専任教員の増員を検討してもらうよう働き掛ける。		た。問題は不測の事態が起こった時、どのように対応していくかを考えておく必要がある。 教員数の不足は、授業の質や学生のサポート体制に直接的な影響を及ぼすと思われる。専任教員や日本大学歯学部兼任講師、日本大学歯学部兼任講師が不測の事態で欠けた場合に授業や実習が滞ってしまう。		きることはない。しかし、教員の増員を図っていくことが必要と思われる。 専任教員の増員は、喫緊の課題と思われる。日本大学歯学部との連携を更に強化し、日本大学歯学部の教員に対しても研修や特別なインセンティブを提供し、教育活動への積極的な参加を促すことが考えられる。専任教員や日本大学歯学部兼任講師、歯学部兼任講師が不測の事態で欠けた場合に、授業や実習が滞らないようにするため、バックアップ体制として利用可能な非常勤講師のリストを作成し、必要に応じて迅速に対応できる体制を整えることを望む。		
評価項目③ 学生相談に関する体制は整備されているか。	1 現状分析 精神的な問題を抱え登校困難になる学生が増えている。実習中や授業終了後に教員の負担を減らすため、学生と1対1にならないように複数人で相談を受けるようにしている。中には学校以外の悩みにより不登校になる学生もいるため日本大学の学生支援制度を勧めるが利用してくれる学生は少ない。 2 長所・特色 個々の学生相談に対し、校長をはじめ教務主任、専任教員と情報共有し協議している。	A	精神的な問題や学校外の問題など学生を取り巻く状況は複雑化していると感じる。相談を受ける専任教員の負担も大きいと推察されるが、専任教員も学生の問題を1人で抱え込まないようにしてほしい。 プライベートな問題も多々あると思うが教員の精神的、肉体的負担が心配である。	学生に関する問題を教員会で情報を共有していることは良い方策である。 学生支援窓口の取組はすばらしいことだと思う。この取組をもっと学生に周知してほしい。 学生の精神的な健康を重視し、個々のニーズに応じたサポートを行っている点は評価できる。	学生の問題について教員同士が情報を共有し、対応策などは必要に応じて専門のカウンセラーに相談して対応するなど多角的に学生をサポートしてほしい。また、専任教員は、学生が話しやすい環境を作り、学生自身が1人で問題を抱え込まないように学生とコミュニケーションをとり温か	A	現在可能な取組を継続しながら、専任教員が過度な負担とならないよう情報共有と相互でのサポートを行うことで対応していく。また学生に学生支援室について情報提供を行い、カウンセリングを希望する学生がいた場合は手続等の支援を図っていく。

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度の取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
	3 問題点 相談を受ける専任教員の負担が大き く、他の学生にもモチベーションの低下 が伝播することがある。 4 取組方策 学生に寄り添い不安を解消するため に話を聞き、専門家の意見やアドバイ スを基に学生に対してコミュニケーション をとる。日本大学の学生支援のパンフ レットを学生に配布している。		専任教員の負担が 大きくなっている現 状は教育の質や教員 の健康にも影響を与 えかねない。精神的な 苦痛が異なるため、一 律のアプローチでは なく、個別の対応が必 要である。		い心で見守っていく ことを期待する。 学生への対応をこ のまま継続してい てほしい。 学生の心理的なサポ ートに専門家に委託す ることにより、専任教 員の負担を軽減し、よ り専門的な対応が可能 になる。教員のメンタ ルヘルスも重視し、定 期的なカウンセリング やストレス管理セミナー を提供することも必要 である。		
評価項目④ 【重点目標】 学生の募集活動における社会 人への情報提供等の取組は適 正に行われているか。	1 現状分析 随時、学校見学を受け付けており、実 際の授業を見学することができ、専任教 員及び事務局で見学者からの相談を受 けている。また、Web サイトから学校案 内のダウンロードが可能であり、SNS を利用し学校生活の様子を発信してい る。 2 長所・特色 昼間の時間は自由に活用できるとい う夜間課程の利点と歯学部附属という 長所がある。令和7年度入試では社会人 選抜・自己推薦選抜を3回とした。 3 問題点 社会人に向けた情報発信の手段が乏 しい。 4 取組方策 今後も専任教員による高等学校への 訪問を継続しながら、歯科技工所への資 料送付及び学校案内リーフレットを更 新し、附属歯科病院へのリーフレットの	B	夜間の歯科技工専 門学校である特徴を 生かし、社会人が受験 しやすい体制作りが 必要と思われる。ホ ームページが明るく なり、検索がしやす くなっている。ホ ームページを効果 的に活用して社会 人向けに発信して はどうか。 歯科技工士の人材 不足を少子化の中 でよく検討してい ると思う。 学校が見学者向け に様々なアプローチ を取っている点は 評価できる。夜間 課程を提供するこ とで、日中の時間 を自由に活用でき る点は大きな魅力 となる。社会人学 生が情報を収集す るための主要な手	ホームページから 学校案内がダウン ロードできること は良い方策と思わ れる。 今後も学校訪問は 継続するよう期待 する。 情報発信の強化に ついては積極的な 姿勢が見られる。 歯学部附属であ ることが専門性を 強化しており、社 会人選抜・自己推 薦選抜の受験回数 を増やすことによ って、社会人学生 の入学の門戸を広 げていることも評 価されるべきであ る。	ホームページの利 用についてホーム ページの見出し欄 に社会人向けの項 目をつける又は Voice の欄を利用 して、社会人向け の枠を設けて呼び 掛けをしてはど うか。 社会人選抜・自己 推薦選抜の受験回 数について、令和 7年度入試は3回 の受験回数にな っているが、1月 、2月に受験日が 無く、1名でも多 く受験できるよ うな機会を増やす ように受験回数 を増やすよう期待 する。 選抜方式による募 集人数について、 学校推薦型選抜 (付属高等学校・ 指定校制・公募 制)と社会人選抜・自	B	Web サイト閲覧者 の興味を引くよう 内容を充実させ、 学校に足を運ん でいただけるよう 見直しを図る。 また、受験回数 を増やすことで 門戸を広げ、1 名でも多くの入 学者を獲得でき るように検討し たい。 指摘があった社 会人選抜・自己 推薦選抜の出願 書類に関して、 「出身高等学校 長の推薦書(本 校指定用紙使 用)」については 既に既に対応し 令和8年度入試 では削除した。

自己点検・評価		取組 評価	学校関係者評価				令和7年度取組方策
項目	結果		自己点検・評価結果 への意見等	優れている点、継続 してほしい点	問題点・要望等	取組 評価	
	設置を行うまた、社会人への情報発信のためSNSの更新機会を増加させる。令和7年度入試の学生募集広告には社会人向けの特集ページを追加した。		段としてインターネットが用いられている現代において、その対応が不十分であると機会損失につながる可能性がある。		己推薦選抜とを合わせて10名となっているが、社会人の受験生からすると入学が難しいのではないかと懸念されるため募集人員の再考を期待する。 社会人選抜・自己推薦選抜の出願書類について、ホームページに記載されている出願書類の中で、出身高等学校長の推薦書（本校指定用紙使用）とあるが、社会人の受験生に必要な、再考を期待する。 歯科技工士の社会的認知度の低さを少しでも上げることができればよいと思う。学校教育としてより専門分野に特化した教育ができれば、学生募集に一役買えるのではないと思う。 社会人学生が情報を収集するための主要な手段としてインターネットが用いられている現代において、その対応が不十分であると機会損失につながる可能性がある。		